



2014年7月25日

株式会社 リクルートライフスタイル

# 「リサーチ」 宿泊旅行調査 2014



- 2013年度(2013年4月～2014年3月)の国内宿泊旅行実施率は、57.5% (前年度比1.7pt増)
- 宿泊旅行での費用総額は、2010年度以降最大の約7.3兆円 (前年度比5.5%増) で市場が回復傾向

株式会社リクルートライフスタイル(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村吉弘)に設置されたじゃらんリサーチセンター(センター長：沢登次彦)は、この度、全国15,413人の宿泊旅行者を対象に、「じゃらん宿泊旅行調査2014」を実施しました。この調査は、観光などを目的とした宿泊を伴う旅行実態を把握するために行っている調査で、出張・帰省・修学旅行などを除いたマーケットの動向を調べています。2013年度(2013年4月～2014年3月)における国内での宿泊旅行の実態について、その行き先や回数、旅行費用などの調査をし、今年で10回目の実施となります。主な結果は以下の通りです。

## <TOPICS>

※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く

### ●【宿泊旅行実施率・延べ宿泊数】

2013年度(2013年4月～2014年3月)の宿泊旅行※1実施率は57.5%と、前年度より1.7pt増加。1年間の旅行実施回数も前年度より0.13回増加し、全国の延べ宿泊数(人泊)は前年度比6.5%増の約2億4,972万人泊と、2010年度以降では最大の数。

..... P3

### ●【宿泊旅行にかけられた費用】

国内宿泊旅行にかけられた費用総額(交通・宿泊・現地小遣いなど)は約7.3兆円で、前年度から5.5%の増加。1回の宿泊旅行にかかった大人1人あたり費用は46,800円で、前年度より800円減少するも、旅行回数の増加が単価の下落を上回り、2010年度以降では最多額。

..... P4-5

### ●【同行形態】

「一人旅」は調査開始以来、9年連続増加し15.4%。20～34歳男性では調査開始の2004年度に比べると11.2pt増加して、4回に1回以上(26.1%)が「一人旅」。

..... P6

### ●【都道府県別の延べ宿泊旅行者数と増減】

多くの都道府県で宿泊旅行者数が増加。延べ宿泊旅行者数1位の東京都は1,720万人と2年連続の増加。増加率では出雲大社の遷宮があった島根県(56.1%増)や、テレビ連続ドラマで話題の福島県(31.0%増)などで大きな伸び。

..... P7-8

### ■「テーマ別・都道府県魅力度ランキング」

▶ 地元ならではのおいしい食べ物が多かった	1位	高知県	2位	広島県	3位	北海道、香川県
▶ 魅力のある特産品や土産物が多かった	1位	沖縄県	2位	京都府	3位	北海道
▶ 魅力的な宿泊施設が多かった	1位	大分県	2位	沖縄県	3位	熊本県
▶ 地元の人のホスピタリティを感じた	1位	沖縄県	2位	青森県	3位	鹿児島県
▶ 子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	1位	千葉県	2位	沖縄県	3位	和歌山県
▶ 若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	1位	千葉県	2位	沖縄県	3位	大阪府
▶ 大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	1位	千葉県	2位	京都府	3位	沖縄県
▶ 現地で良い観光情報を入手できた	1位	沖縄県	2位	京都府	3位	青森県

..... P9-10

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press/>

## 調査概要

◎ 調査名 **じゃらん宿泊旅行調査2014**

◎ 調査方法 **インターネットによる調査**

### ■ 1次調査

- ① 調査目的 全国の宿泊旅行実施者を抽出することに加え、性・年代別の宿泊旅行実施率を知るために実施した。
- ② 調査時期 2014年4月1日(火)～9日(水)
- ③ 調査対象 全国20～79歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)
- ④ 配信数 317,089件
- ⑤ 調査内容 昨年度1年間(2013年4月～2014年3月)の国内宿泊旅行(出張・帰省・修学旅行などを除く)の有無について
- ⑥ 回収数 80,000件(回収率25.2%)
- ⑦ 1次調査集計対象者数 20,000件
  - ※ 2次調査において都道府県別、性・年代別の割付にあった回収が得られるように配信した。
    - ・ 配信数と割付について
      - 2次調査のセル別目標回収数は、『平成22年 国勢調査』の都道府県別・性・年代別の人口に概ね従うように47都道府県を5ランクに分けサンプル数を割り付けて配信した。ランクごとに6:5:3:2:1の割合で、合計約15,400件の回収を目標とした。
      - ・ 2次調査の配信数は、ウェイトバック値のバランスをなるべく揃えるために、県別に均等割付ではなく、ランクを設けて割付を行った上で、1次調査および追加調査の旅行実施者45,268件を都道府県ごとに分配し、サンプル数を割り付けて配信した。
    - ※ 回収された80,000件のうち都道府県別・性・年代別に割付を行い20,000件を抽出。性・年代別宿泊旅行実施率を算出。
- ⑧ 2次調査対象件数 44,961件

### ■ 2次調査

- ① 調査目的 全国の宿泊旅行実施者に対して、宿泊旅行の内容を知るために実施した。
- ② 調査時期 2014年4月9日(水)～22日(火)
- ③ 調査対象 45,268件(うち、同居家族モニター307件)
  - ・ 1次調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人:44,961件
  - ・ 追加調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人のうち、調査協力が得られた60歳以上の家族本人:307件
  - ※ 調査回収難度が高い60歳以上の回収数を増やすために追加調査を実施した。追加調査は株式会社マクロミルの登録モニターのうち60歳以上の家族と同居しているモニターを対象として該当家族が同席する上で回答という条件で実施。(回収数9,026件<配信数31,990件 回収率28.2%>、2次調査対象者数307件)
- ④ 配信数 23,202件(うち、同居家族モニター39件)
  - ※ 配信数は対象者の中から都道府県別、性・年代別の割付にあわせてランダムに抽出した。
- ⑤ 調査内容 昨年度1年間に実施したすべての宿泊旅行(出張・帰省・修学旅行などを除く)の行き先と回数について、また1人最大3件までの個別宿泊旅行について、具体的な内容を調査した。
- ⑥ 回収数 15,462件(回収率66.6%)
- ⑦ 有効回答数 15,413件(うち、同居家族モニター26件、旅行件数ベース30,923件)

#### ※集計・分析手法について

はじめに平成25年10月1日現在人口推計(総務省統計局発表)および1次調査結果を用い、全国の宿泊旅行者の母集団を推計した。次に、2次調査の集計・分析にあたり、推計された宿泊旅行者の母集団における都道府県別、性・年代別構成比に基づいてウェイトバックを行い、構成比のずれを補正している。  
また今回は60歳以上の登録モニター数が少ない県について、60歳以上の家族と同居している登録モニターに代理回答を実施、2次調査の調査対象として追加した。

#### ◇じゃらんリサーチセンターの概要

「じゃらんリサーチセンター」は、国をはじめ地方自治体、観光関連事業者にとって、すぐに使える情報を広く提供し、かつ、日本の観光振興にさまざまな切り口から提案を行うことで、新しい観光ムーブメントを創出し、観光産業全体のさらなる活性化に寄与することを狙いとし、2005年8月より、株式会社リクルート(現・株式会社リクルートライフスタイル)内に設置されている組織です。

2013年度(2013年4月～2014年3月)の宿泊旅行※1実施率は57.5%と前年度より増加(1.7pt増加)。1年間の宿泊旅行実施回数は前年度より0.13回増加し、2.84回。全国の延べ宿泊数(人泊)は大幅増加(前年度比6.5%)の約2億4,972万人泊と、2010年度以降最高。

2013年4月1日～2014年3月末の1年間に宿泊旅行を行った人の割合は57.5%で、好景気の影響もあってか2年ぶりに増加した。性・年代別では、20～34歳男性層が前年度比1.5pt低下した以外は、すべての性・年代で実施率が前年度比で増加。さらに実施者の年間平均旅行回数が増加したことで、延べ宿泊旅行者数※2は、前年度比7.5%の増加となった。また、1回あたりの宿泊数は微減し1.60泊。結果、延べ宿泊数※3は、前年度比で1,527万人泊増加(前年度比6.5%増加)の2億4,972万人泊と大幅に増加した。

- ※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く(※「友人・知人宅、車中泊、キャンプなど宿泊施設を利用しない場合でも、宿泊を伴う旅行であれば含める」という注釈を今回から追加している。)
- ※2 延べ宿泊旅行者数・・・推計人口×宿泊旅行実施率×宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数
- ※3 延べ宿泊数(人泊)・・・延べ宿泊旅行者数×宿泊旅行実施者の1回の旅行あたり平均宿泊数

◇延べ宿泊旅行者数の推計方法

※推計値の算出は四捨五入していない実データで行っています。

	H25年10月1日 現在人口推計	調査結果			推計値		
	人口 (万人) <A>	宿泊旅行 実施率 (%) <B>	宿泊旅行 実施者の 年間平均 旅行回数 (回) <C>	宿泊旅行 実施者の 1回の旅行あたり 平均宿泊数 (泊) <D>	実 宿泊旅行者数 (万人) A*B	延べ 宿泊旅行者数 (万人回) A*B*C	延べ 宿泊数 (万人泊) A*B*C*D
[2013年度]全国20～79歳男女	9,557	57.5	2.84	1.60	5,491	15,599	24,972
	前年との差→	1.7	0.13	前年との差→	137	1,094	1,527
				前年比→	2.6%	7.5%	6.5%
[2012年度]全国20～79歳男女	9,598	55.8	2.71	1.61	5,354	14,505	23,445
[2011年度]全国20～79歳男女	9,646	57.6	2.64	1.63	5,561	14,686	23,987
[2010年度]全国20～79歳男女	9,672	56.7	2.73	1.64	5,489	15,020	24,686
[2009年度]全国20～79歳男女	9,653	60.3	2.79	1.65	5,819	16,239	26,778
[2008年度]全国20～79歳男女	9,688	63.1	2.84	1.68	6,110	17,355	29,235
[2007年度]全国20～79歳男女	9,707	63.8	2.83	1.69	6,196	17,514	29,604
[2006年度]全国20～79歳男女	9,686	64.7	2.77	1.69	6,269	17,366	29,325
[2005年度]全国20～79歳男女	9,722	66.1	2.78	1.72	6,424	17,875	30,856
[2004年度]全国20～79歳男女	9,707	65.4	2.73	1.68	6,350	17,343	29,024

※人口について、次の統計値を用いて調査を行っています。  
 2011年度：H23年10月1日現在人口推計    2010年度：H22年国勢調査<速報>    2013年度：H25年10月1日現在人口推計    2012年度：H24年10月1日現在人口推計  
 2007年度：H19年10月1日現在人口推計    2006年度：H17年10月1日現在国勢調査人口    2009年度：H21年10月1日現在人口推計    2008年度：H20年10月1日現在人口推計  
 2005年度：H16年10月1日現在人口推計    2004年度：H15年10月1日現在人口推計

◇性・年代別 宿泊旅行実施率

の推移

※1次調査回答者ベース

	単位(%)										単位(ポイント)	
	13年度	12年度	11年度	10年度	09年度	08年度	07年度	06年度	05年度	04年度	13年度 -12年度	13年度 -04年度
全体	57.5	55.8	57.6	56.7	60.3	63.1	63.8	64.7	66.1	65.4	1.7	▲7.9
男性	54.9	53.3	55.4	54.2	58.4	61.6	62.7	62.6	64.4	62.9	1.6	▲8.0
女性	60.0	58.2	59.9	59.2	62.2	64.5	64.9	66.8	67.7	67.8	1.7	▲7.8
20～34歳	57.5	57.4	60.5	57.1	60.9	63.6	64.0	64.0	64.0	65.2	0.1	▲7.7
35～49歳	54.7	52.7	54.5	53.6	57.4	59.2	59.5	60.9	63.5	62.2	2.0	▲7.5
50～79歳	59.0	56.8	58.1	58.3	61.6	64.9	66.1	67.1	68.6	67.2	2.2	▲8.2
20～34歳 / 男性	51.3	52.8	57.2	53.2	57.0	60.6	61.8	61.0	61.4	62.5	▲1.5	▲11.2
20～34歳 / 女性	64.0	62.3	64.0	61.3	65.0	66.8	66.3	67.1	66.7	68.0	1.8	▲4.0
35～49歳 / 男性	53.1	51.8	53.0	53.6	56.9	59.6	60.1	60.4	62.2	61.9	1.3	▲8.8
35～49歳 / 女性	56.3	53.7	55.9	53.6	57.8	58.7	58.9	61.5	64.8	62.6	2.6	▲6.3
50～79歳 / 男性	57.6	54.4	55.9	55.1	59.9	63.2	64.7	64.8	67.4	63.8	3.2	▲6.2
50～79歳 / 女性	60.3	59.0	60.2	61.2	63.1	66.5	67.3	69.2	69.7	70.3	1.3	▲10.0

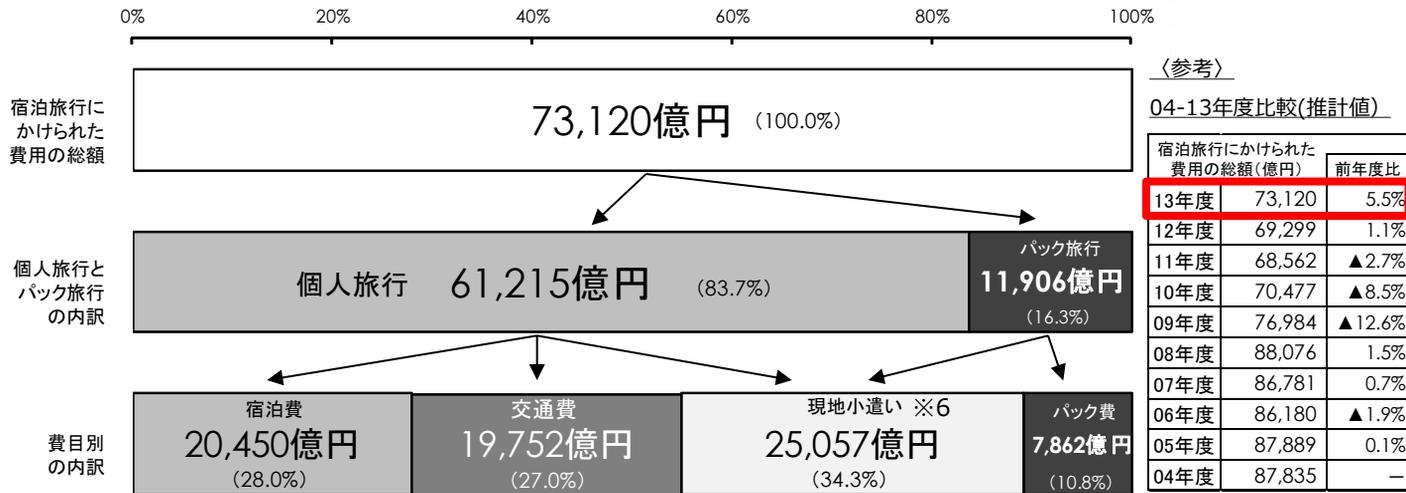
# TOPIC 国内宿泊旅行の費用総額は2010年度以降最多

全国の宿泊旅行にかけられた費用総額は約7.3兆円で、前年度比で5.5%増と2年連続の回復。1回(大人1人あたり)の宿泊旅行にかかった費用は46,800円で、前年度より800円低下(現地小遣いで1,000円減)。

1回の宿泊旅行にかかった費用※4は、前年度47,600円→46,800円と前年度比で800円減少。個人旅行※5における内訳でみると、交通費、宿泊費はほぼ変わりなく、現地小遣いが16,300円→15,200円へと使用額が減少した。旅行手配は、個人旅行比率が88.4%と多数派だが、数値は2年連続で微減した。

- ※4 1回の宿泊旅行にかかった費用(大人1人あたり)・・・1回の宿泊旅行にかかった費用について、個人旅行の場合、1人あたりの宿泊費・交通費・現地小遣いの合計。パック旅行の場合、1人あたりのパック費・現地小遣いの合計。20歳未満の子供を連れた旅行の場合は、全員でかかった費用を同行した大人の数で割っている。
- ※5 個人旅行・・・個人で宿を手配した旅行で、旅行会社を通して宿を手配した場合も含む。

## ◇ 宿泊旅行にかけられた費用総額(推計値)



(参考)

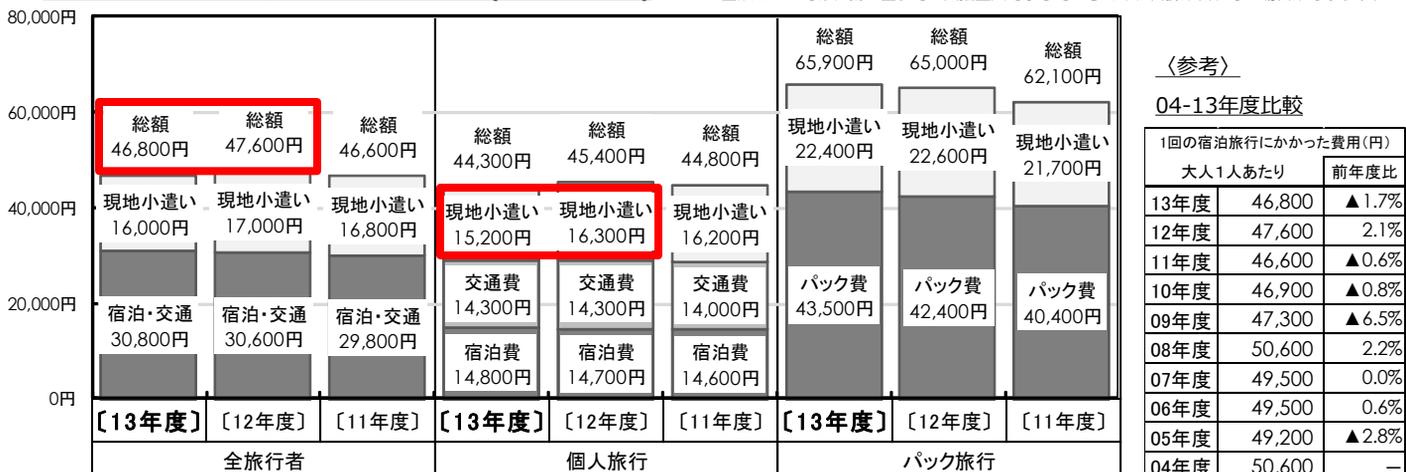
### 04-13年度比較(推計値)

宿泊旅行にかけられた費用の総額(億円)	前年度比
13年度	73,120 ▲5.5%
12年度	69,299 ▲1.1%
11年度	68,562 ▲2.7%
10年度	70,477 ▲8.5%
09年度	76,984 ▲12.6%
08年度	88,076 ▲1.5%
07年度	86,781 ▲0.7%
06年度	86,180 ▲1.9%
05年度	87,889 ▲0.1%
04年度	87,835 -

※6 現地小遣い・・・旅行先での飲食・買い物、遊興費、目的エリア内での移動費用を含む。

## ◇ 1回の宿泊旅行にかかった費用(大人1人あたり)

※金額については、百の位までの四捨五入で示しているため、合計が合わない場合があります。



(参考)

### 04-13年度比較

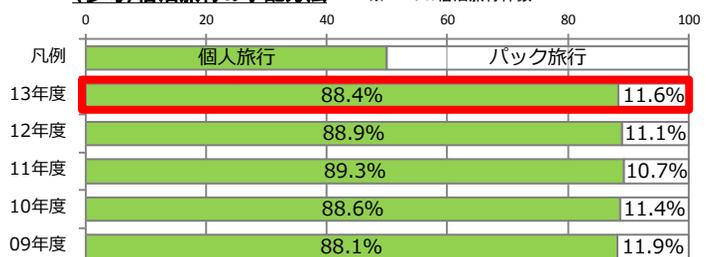
1回の宿泊旅行にかかった費用(円)	前年度比
13年度	46,800 ▲1.7%
12年度	47,600 ▲2.1%
11年度	46,600 ▲0.6%
10年度	46,900 ▲0.8%
09年度	47,300 ▲6.5%
08年度	50,600 ▲2.2%
07年度	49,500 ▲0.0%
06年度	49,500 ▲0.6%
05年度	49,200 ▲2.8%
04年度	50,600 -

### <全国の宿泊旅行費用総額の推計方法>

- ①集計データより全国の性・年代別の個人旅行とパック旅行の延べ宿泊旅行者数を推計
- ②全国の性・年代・手配方法(個人orパック)別の旅行費用の平均値(単価)を算出
- ③全国の性・年代・手配方法別の延べ宿泊旅行者数に単価を乗じ、性・年代・手配方法別の費用総額を算出
- ④性・年代別の費用総額の結果を積み上げて全国の宿泊旅行費用総額を算出

### <参考>宿泊旅行の手配方法

※ベース: 宿泊旅行件数



# 【参考】 現地での消費額の内訳

**2.5兆円の現地小遣い（前ページ参照）のうち、現地で追加飲食費が8,466億円、体験・観光費用が5,497億円、お土産・買い物費用が4,845億円。**

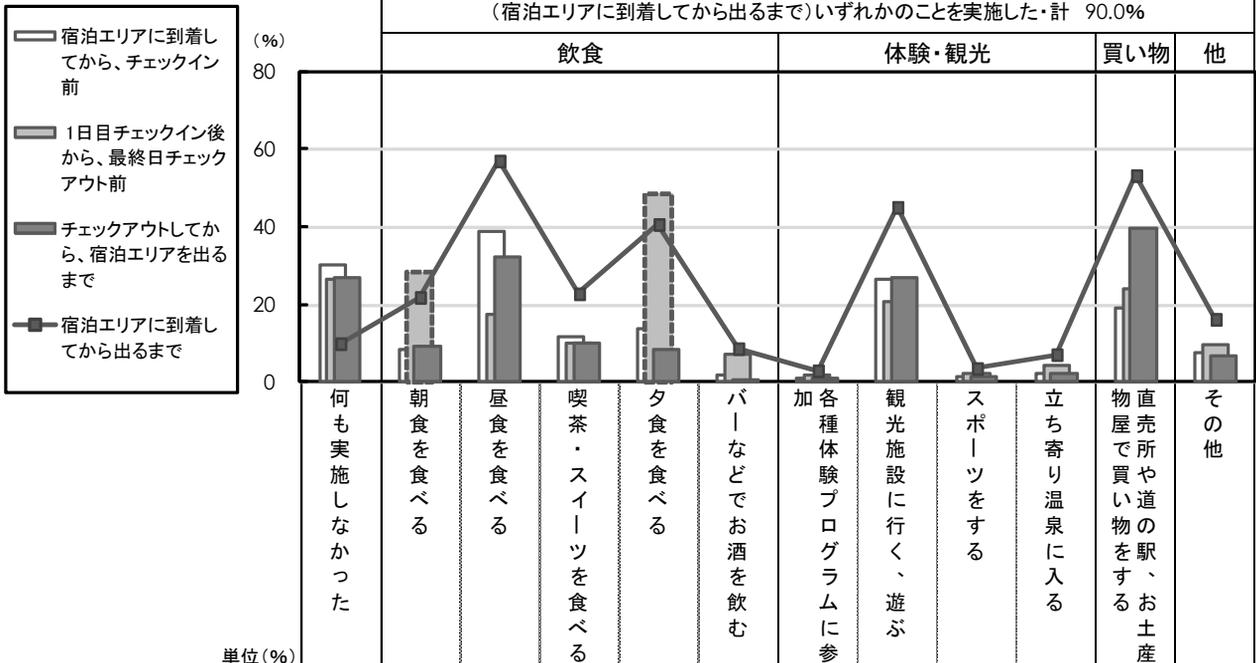
宿泊したエリアに到着してから出るまでに現地での追加消費額の内訳では、飲食費で8,466億円、体験・観光費用が5,497億円、買い物で4,845億円であった。

「1回あたりの単価（大人1人あたり）」では、買い物で5,830円、夕食で2,980円、昼食で1,480円、飲酒で4,190円、立ち寄り温泉で920円などの平均単価となっている。

## ◇宿泊エリアでの消費行動（複数回答）、回数・金額（数値回答）、消費額（推計値）

※実施割合、平均回数・平均金額は、1人あたり最大3回までの旅行件数ベース

（宿泊エリアに到着してから出るまで）いずれかのことを実施した・計 90.0%



単位 (%)

	何も実施しなかった	朝食を食べる	昼食を食べる	喫茶・スイーツを食べる	夕食を食べる	バーなどでお酒を飲む	各種体験プログラムに参加	観光施設に行く、遊ぶ	スポーツをする	立ち寄り温泉に入る	物直売所や道の駅、お土産を売る	その他
宿泊エリアに到着してから、チェックイン前	30.3	8.3	38.8	11.7	13.8	1.8	1.1	26.4	1.5	2.3	19.0	7.5
1日目チェックイン後から、最終日チェックアウト前	26.4	A 28.4	17.4	9.9	B 48.5	7.2	1.6	20.8	2.0	4.1	24.0	9.7
チェックアウトしてから、宿泊エリアを出るまで	27.0	9.3	32.2	9.9	8.4	0.7	1.0	26.7	1.5	2.4	39.8	6.8
宿泊エリアに到着してから出るまで	10.0	C 21.9	57.0	22.8	D 40.7	8.7	3.0	45.1	3.6	7.1	53.2	16.2

平均回数(回)

平均金額(円)

金額は十の位までの四捨五入

推計消費額(億円)

→総額 18,809 億円

- ※ 消費行動・・・宿泊費、バック料金に含まれていない活動を各タイミングで実施した割合。
- ※ 平均金額・・・「1回目に支払った大人1人分の金額」の平均。「買い物」のみ、「旅行中に支払った総額の大人1人分金額」の平均。
- ※ 推計消費額の算出方法・・・①回答者それぞれについて、各消費行動の回数×1回目の単価で各消費行動の消費額を算出。②各消費行動の平均消費額を算出。③全国の延べ宿泊旅行者数に各消費行動の実施割合を乗じて各実施者数を算出。更に各行動の平均消費額を乗じて、消費総額を推計。
- ※ 母数等について・・・

- A: 1泊目の宿泊施設のタイプが「1泊2食つき」と「1泊朝食つき」の旅行は対象外になっているが、2泊目以降の宿泊施設タイプは不問。
- B: 1泊目の宿泊施設のタイプが「1泊2食つき」と「1泊夕食つき」の旅行は対象外になっているが、2泊目以降の宿泊施設タイプは不問。
- C: 宿泊タイプが「1泊2食つき」「1泊朝食つき」の場合は「チェックイン前」か「チェックアウト後」に朝食を食べた旅行、その他の宿泊タイプの場合は「チェックイン前」から「チェックアウト後」までに朝食を食べた旅行を合わせた割合を示している。
- D: 宿泊タイプが「1泊2食つき」「1泊夕食つき」の場合は「チェックイン前」か「チェックアウト後」に夕食を食べた旅行、その他の宿泊タイプの場合は「チェックイン前」から「チェックアウト後」までに夕食を食べた旅行を合わせた割合を示している。

「一人旅」は調査開始以来、9年連続増加し15.4%。  
20～34歳男性で「一人旅」が4回に1回以上の26.1%に。

最も割合が高いのは「夫婦二人での旅行」で24.8%。「職場やサークルなど団体旅行」「小学生以下の子連れ家族旅行」が引き続き減少傾向。

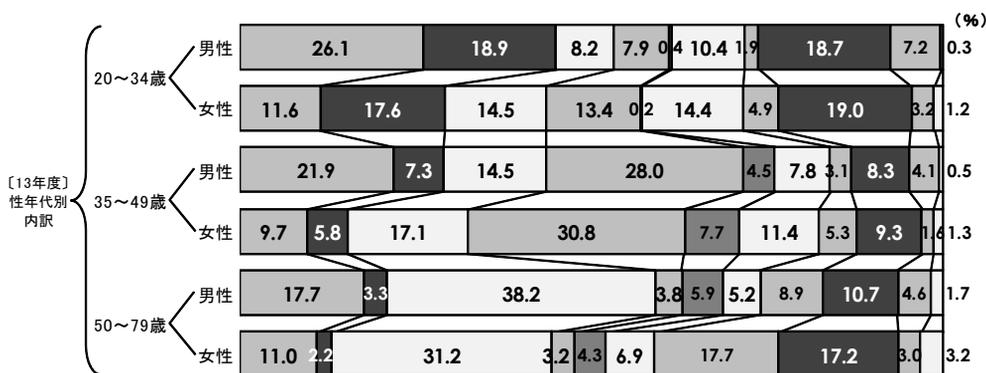
一方、「一人旅」は調査開始以来の9年連続増加。性・年代別で見ると、「一人旅」は男性が女性よりも高く、20～34歳男性は、調査開始時点から11.2pt上昇し、26.1%に。

◇宿泊旅行の同行形態（単一回答）

<ベース：1人あたり最大3回までの旅行件数>

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。

	一人旅	恋人との旅行	夫婦二人での旅行	小学生以下の子連れ家族旅行	中学生以上の子連れ家族旅行	親連れ家族旅行	その他の家族旅行	友人との旅行	職場やサークルなど団体旅行	その他	(%)
[13年度] 全体	15.4	7.0	24.8	11.7	4.3	8.4	9.1	13.8	3.8	1.7	
[12年度] 全体	14.5	7.2	24.1	12.7	4.3	7.9	9.2	13.8	4.4	1.8	
[11年度] 全体	14.1	7.4	24.5	12.6	4.0	8.0	8.8	14.3	4.5	1.9	
[10年度] 全体	13.1	7.2	24.4	12.8	3.9	7.8	9.0	15.3	4.7	1.8	
[09年度] 全体	12.9	7.4	24.3	12.4	3.7	7.7	9.3	15.2	5.2	2.0	
[08年度] 全体	12.5	7.4	24.2	12.0	3.6	7.6	9.3	15.3	5.8	2.2	
[07年度] 全体	12.0	7.3	23.8	12.4	3.7	7.2	9.3	15.9	6.1	2.2	
[06年度] 全体	11.2	7.7	24.0	12.8	3.5	7.1	9.5	16.4	5.7	2.2	
[05年度] 全体	10.8	7.7	23.6	13.5	3.7	7.0	9.5	15.6	6.4	2.1	
[04年度] 全体	10.5	8.1	22.4	14.6	4.3	7.3	8.6	15.3	5.8	3.0	



◇「一人旅」構成比の推移

<ベース：1人あたり最大3回までの旅行件数>

性・年代別	13年度	12年度	11年度	10年度	09年度	08年度	07年度	06年度	05年度	04年度	(%)
20～34歳 男性	26.1	23.2	23.3	20.9	21.6	20.1	20.3	19.5	17.7	14.9	
20～34歳 女性	11.6	10.2	10.7	10.0	10.3	9.2	8.6	8.7	8.2	7.2	
35～49歳 男性	21.9	20.9	18.5	18.4	16.7	15.7	15.2	13.9	13.7	12.3	
35～49歳 女性	9.7	8.0	8.2	9.4	7.4	7.7	7.3	6.7	6.7	5.8	
50～79歳 男性	17.7	16.9	17.4	14.1	14.1	14.6	13.1	12.2	12.5	13.6	
50～79歳 女性	11.0	11.3	9.9	9.8	10.3	9.6	9.5	8.8	8.1	8.8	

「延べ宿泊旅行※者数の多い旅行先」都道府県は、上位は大きな変動なし。出雲大社で本殿遷座祭が行われた島根県や連続ドラマで取り上げられた福島県などで旅行者の増加率が高かった。

「延べ宿泊旅行者数の多い旅行先」上位10都道府県の顔ぶれは、前年度と変わらないが、長野県以外では、延べ宿泊旅行者数の増加がみられた。

延べ宿泊旅行者数の増加率1位の島根県では、2013年5月出雲市の出雲大社で、「本殿遷座祭」（60年ぶりの遷宮）の影響か、大きな伸びをみせた。また、テレビの連続ドラマで取り上げられた福島県も舞台となった会津などで大きな伸びがあった。その他、増加率上位の都道府県には、富士山の世界遺産登録効果などもあったと思われる静岡県などがランクイン。

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。ただし、友人・知人宅、車中泊、キャンプなど宿泊施設を利用しない場合でも、宿泊を伴う旅行であれば含める。

※1回の旅行において複数の都道府県に宿泊した場合、それぞれの都道府県に旅行回数1回とカウントしている。

※1人あたり1年間に行ったすべての旅行回数を尋ねた結果から推計している。

◇都道府県別の延べ宿泊旅行者数（推計値）

※上位10都道府県

全体							増減傾向			
2013年度 推計値		順位変動	2012年度 推計値	2011年度 推計値	2010年度推計値	2009年度推計値	13←12	12←11	11←10	10←09
全国	15,599万人		14,505万人	14,686万人	15,020万人	16,239万人	+	-	-	-
1位 東京都	1,720万人	←	(1位 1,659万人)	(1位 1,453万人)	1,499万人	1,628万人	+	+	-	-
2位 北海道	1,027万人	←	(2位 1,025万人)	(2位 944万人)	978万人	1,136万人	+	+	-	-
3位 神奈川県	832万人	↑	(4位 766万人)	(5位 781万人)	837万人	807万人	+	-	-	+
4位 静岡県	831万人	↑	(5位 715万人)	(3位 787万人)	784万人	828万人	+	-	+	-
5位 長野県	773万人	↓	(3位 785万人)	(4位 786万人)	816万人	871万人	-	-	-	-
6位 大阪府	769万人	←	(6位 706万人)	(7位 679万人)	678万人	698万人	+	+	+	-
7位 京都府	691万人	←	(7位 656万人)	(6位 690万人)	687万人	675万人	+	-	+	+
8位 千葉県	662万人	←	(8位 573万人)	(8位 572万人)	593万人	634万人	+	+	-	-
9位 兵庫県	567万人	←	(9位 474万人)	(9位 525万人)	476万人	558万人	+	-	+	-
10位 福岡県	499万人	↓	(9位 474万人)	(10位 457万人)	446万人	474万人	+	+	+	-

◇都道府県別の延べ宿泊旅行者増加率・

増加数（2013年度-2012年度推計値）

※増加率上位10都道府県

全体		
2013年度←12年度	増減率	増加数
1位 島根県	56.1%	67万人
2位 福島県	31.0%	79万人
3位 茨城県	27.2%	27万人
4位 宮崎県	25.8%	28万人
5位 岡山県	21.7%	37万人
6位 兵庫県	19.6%	93万人
7位 愛知県	18.0%	68万人
8位 静岡県	16.2%	116万人
9位 千葉県	15.4%	88万人
10位 沖縄県	15.2%	65万人
10位 三重県	15.2%	54万人

【参考】ブロック別の延べ宿泊旅行者数増減

（2013年度-2012年度推計値）

		旅行先ブロック									
		北海道ブロック	東北ブロック	関東ブロック	甲信越・北陸ブロック	東海ブロック	関西ブロック	中四国ブロック	九州ブロック	沖縄ブロック	
全体	13年度	1,027	1,381	4,187	1,972	1,950	2,500	1,462	1,879	496	
	12年度	1,025	1,307	3,953	1,934	1,686	2,331	1,325	1,722	431	
	11年度	944	1,292	3,773	1,967	1,810	2,449	1,456	1,780	436	
	13-12年度増減	2	74	234	39	264	169	136	157	65	
居住地ブロック	北海道ブロック	-36	0	18	6	-1	-14	7	0	2	
	東北ブロック	-6	40	15	4	18	0	4	12	-2	
	関東ブロック	47	25	83	13	138	65	43	79	13	
	甲信越・北陸ブロック	-12	12	-1	-11	21	-1	5	-2	8	
	東海ブロック	2	-15	36	35	60	18	30	8	3	
	関西ブロック	1	10	47	-25	11	40	18	2	20	
	中四国ブロック	2	2	27	5	10	50	4	3	3	
九州ブロック	0	-1	28	11	4	1	21	52	10		
沖縄ブロック	5	2	-19	1	2	8	4	4	9		

※全体増減／-100万人以上：網掛け白文字、+100万人以上：網掛け黒文字 ※ブロック別増減／-30万人以上：網掛け白文字、+30万人以上：網掛け黒文字

【参考】

# 《選んだ理由別 都道府県ランキング》

- 特定のイベントやアクティビティに興味・・・1位千葉県
- テレビや雑誌で話題・・・1位島根県
- 特定の観光地・スポットに興味・・・1位島根県
- 食・特産品に興味・・・1位北海道
- 良い宿・ホテル・・・1位群馬県 ● 魅力的な温泉・・・1位大分県

旅行先の都道府県を決める理由になった項目においても、テーマパークや有名温泉地、人気グルメなど「定番」の理由で例年上位に位置する都道府県の他に、前ページでも触れた出雲大社の遷宮のあった島根県や伊勢神社で遷宮のあった三重県など2013年独自の話題性があった県が上位に急浮上。

■ 特定のイベントやアクティビティに興味があったから

(単位: %)

2013年度 順位		2012年度 順位	
全体平均	30.0	全体平均	27.0
1位 千葉県	41.9	1位 千葉県	40.7
2位 沖縄県	41.7	2位 沖縄県	39.9
3位 大阪府	39.7	3位 長崎県	38.5
4位 三重県	38.9	4位 大阪府	35.1
5位 福岡県	38.4	5位 福岡県	32.5
6位 長崎県	36.6	6位 東京都	31.9
7位 新潟県	35.1	7位 宮城県	31.4
8位 北海道	34.5	8位 秋田県	31.3
9位 青森県	33.9	9位 青森県	31.2
9位 宮崎県	33.9	10位 茨城県	30.3

■ テレビや雑誌などで話題になっていたから

(単位: %)

2013年度 順位		2012年度 順位	
全体平均	20.6	全体平均	18.1
1位 島根県	47.9	1位 千葉県	27.5
2位 三重県	36.7	2位 長崎県	27.2
3位 長崎県	30.4	3位 大分県	25.4
4位 千葉県	28.0	4位 沖縄県	24.4
5位 沖縄県	25.2	5位 熊本県	23.1
6位 福島県	24.4	6位 広島県	22.9
7位 青森県	24.3	7位 京都府	22.7
8位 北海道	23.4	8位 岩手県	22.6
9位 大分県	22.6	9位 北海道	22.5
10位 神奈川県	22.5	10位 鹿児島県	22.2

■ 特定の観光地・観光スポットに興味があったから

(単位: %)

2013年度 順位		2012年度 順位	
全体平均	64.4	全体平均	62.9
1位 島根県	87.6	1位 奈良県	82.7
2位 三重県	80.7	2位 京都府	80.4
3位 長崎県	78.9	3位 島根県	79.5
4位 沖縄県	76.8	4位 青森県	77.3
5位 千葉県	76.4	5位 千葉県	74.7
6位 鹿児島県	75.4	5位 沖縄県	74.7
7位 広島県	75.0	7位 長崎県	74.0
8位 鳥取県	74.3	8位 広島県	73.4
9位 京都府	73.8	9位 三重県	72.7
10位 奈良県	73.7	10位 高知県	71.9

■ そこならではの食・特産品に興味があったから

(単位: %)

2013年度 順位		2012年度 順位	
全体平均	39.8	全体平均	37.4
1位 北海道	58.0	1位 香川県	58.4
2位 香川県	56.7	2位 沖縄県	55.5
3位 高知県	56.0	3位 北海道	52.2
4位 沖縄県	55.6	4位 高知県	52.1
5位 富山県	54.6	5位 京都府	49.9
6位 広島県	53.9	6位 青森県	49.8
7位 宮城県	52.1	7位 石川県	49.1
8位 石川県	52.0	8位 宮城県	49.0
9位 三重県	49.3	9位 福井県	48.0
10位 京都府	48.6	10位 長崎県	47.9

■ 良い宿・ホテルがあったから

(単位: %)

2013年度 順位		2012年度 順位	
全体平均	49.1	全体平均	45.8
1位 群馬県	64.9	1位 大分県	65.0
2位 静岡県	62.7	2位 静岡県	61.1
2位 大分県	62.7	3位 群馬県	60.2
4位 栃木県	62.6	4位 栃木県	59.0
5位 長野県	58.4	5位 神奈川県	57.6
6位 佐賀県	58.2	6位 石川県	54.9
7位 石川県	58.1	7位 佐賀県	53.6
8位 岐阜県	56.8	8位 山梨県	52.0
9位 神奈川県	56.3	9位 和歌山県	51.2
10位 兵庫県	55.9	10位 長野県	50.1

■ 魅力的な温泉があったから

(単位: %)

2013年度 順位		2012年度 順位	
全体平均	33.2	全体平均	31.5
1位 大分県	73.3	1位 大分県	74.3
2位 群馬県	67.5	2位 群馬県	71.7
3位 岐阜県	60.6	3位 愛媛県	61.6
4位 栃木県	59.7	4位 山形県	55.7
5位 愛媛県	59.0	5位 熊本県	55.6
6位 山形県	57.0	6位 鹿児島県	54.5
7位 佐賀県	56.3	7位 栃木県	54.1
8位 鹿児島県	54.3	8位 岐阜県	52.0
9位 秋田県	53.5	9位 石川県	51.9
10位 石川県	51.9	10位 和歌山県	50.5
10位 熊本県	51.9		

<ランキングの算出方法>

※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

①訪問した旅行先を選んだ理由を「当てはまる」「やや当てはまる」「どちらともいえない」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の5段階から選択。

②「当てはまる」「やや当てはまる」計の割合が多い順にランキング。

■ 地元ならではのおいしい食べ物が多かった

－ 1位：高知県、2位：広島県、3位：北海道・香川県

前々年度1位の高知県（前年度12位）が振り返り、2位広島県（前年度7位）も大幅ランクアップ。沖縄県（前年度1位）は7位に後退。

「かつおのタキ」「かつお料理」が圧倒的な支持を集め、高知県が2年ぶりに首位振り返り。次いで2位にランクアップした広島県は「広島焼き・お好み焼き」と「牡蠣・焼き牡蠣・牡蠣料理」がバランスよく支持を集めた。北海道、石川県、宮城県では「海鮮・魚介類」など具体的な品目というよりジャンルを回答する割合が高かったのに対し、香川県では「讃岐うどん」、沖縄県では「ソーキそば」、福岡県では「とんこつラーメン」など、ご当地の有名な料理の固有名称が多く挙げられた。

(単位：%)

2013年度 順位	
全体平均	56.7
1位 高知県	74.9
2位 広島県	73.6
3位 北海道	72.8
3位 香川県	72.8
5位 宮城県	69.9
6位 石川県	69.6
7位 沖縄県	68.7
8位 富山県	68.4
8位 福岡県	68.4
10位 宮城県	67.9

2012年度 順位	
全体平均	54.1
1位 沖縄県	71.9
2位 北海道	70.7
3位 石川県	69.2
4位 香川県	69.1
5位 福井県	68.4
6位 宮城県	68.3
7位 広島県	67.7
8位 鹿児島県	66.9
9位 福岡県	66.7
10位 富山県	65.7

■ 魅力のある特産品や土産物が多かった

－ 1位：沖縄県、2位：京都府、3位：北海道

8位長崎県(前年度12位)、10位宮崎県(前年度22位)がトップ10入り。トップ3は1位沖縄県、2位京都府、3位北海道で不動の人気。

1位沖縄県では「ちんすこう」、2位の京都府では「八つ橋」「漬け物」、3位北海道では「海産物」「かに」…と、各県定番の名物が挙げられて3年連続でトップ3の順位が不動。8位長崎県では「カステラ」、9位広島県では「もみじ饅頭」、10位宮崎県では「マンゴーを使ったお菓子」などスイーツが代表的な特産品として挙げられてのトップ10入りであった。全体平均が3.9pt上昇し、各地での産品開発が進んでいる状況がうかがわれる。

(単位：%)

2013年度 順位	
全体平均	47.3
1位 沖縄県	65.6
2位 京都府	63.4
3位 北海道	61.0
4位 高知県	60.9
5位 鹿児島県	60.0
6位 富山県	59.5
7位 宮城県	58.8
8位 長崎県	58.0
9位 広島県	57.8
10位 宮崎県	56.0

2012年度 順位	
全体平均	43.4
1位 沖縄県	70.0
2位 京都府	58.5
3位 北海道	57.9
4位 鹿児島県	56.4
5位 青森県	54.2
6位 広島県	54.0
7位 富山県	53.8
7位 石川県	53.8
9位 高知県	53.0
10位 宮城県	52.0

■ 魅力的な宿泊施設が多かった

－ 1位：大分県、2位：沖縄県、3位：熊本県

今回トップ10入りしたのは、バラエティに富んだ宿泊施設が支持された3位熊本県(前年度12位)と、有名温泉地・老舗宿泊施設が人気の7位兵庫県(前年度16位)。

全国的に、老舗温泉地名自体や、老舗旅館名を記載する人も多い中で3位にランクアップした熊本県は農園併設や健康づくりを意識したリゾート、プールやスポーツ施設のある宿泊施設、ペンション、ホテルなど多様な宿泊形態で支持されての上位進出が特徴的。逆に兵庫県では「有馬温泉」「城崎温泉」の人気温泉地とその旅館名が順当な支持を集めた。

(単位：%)

2013年度 順位	
全体平均	41.5
1位 大分県	57.0
2位 沖縄県	55.7
3位 熊本県	50.5
4位 北海道	49.8
5位 千葉県	49.6
6位 神奈川県	48.3
7位 兵庫県	48.1
8位 鹿児島県	47.6
9位 岐阜県	47.5
10位 石川県	46.8

2012年度 順位	
全体平均	38.9
1位 大分県	61.1
2位 沖縄県	56.9
3位 神奈川県	48.5
4位 群馬県	47.5
5位 石川県	46.5
6位 千葉県	45.7
7位 栃木県	45.4
8位 北海道	45.3
9位 岐阜県	45.2
10位 鹿児島県	45.0

■ 地元の人へのホスピタリティを感じた

－ 1位：沖縄県、2位：青森県、3位：鹿児島県

青森県（前年度16位）が2位に。4位徳島県（前年度23位）、5位高知県（前年度14位）、7位宮崎県（前年度12位）、10位京都府（前年度11位）もトップ10入り。

1位の沖縄県は2.7ptダウンしたが、9年連続の1位堅持。地元の人へのホスピタリティを感じた具体的なスポットは、宿泊施設という回答が最も多く、地域の「顔」としての宿泊施設スタッフのホスピタリティの重要性が改めて確認できる。ほかには観光スポット、買い物スポットに加え、タクシー・駅などの交通関係、居酒屋など飲食店が挙げられている。

(単位：%)

2013年度 順位	
全体平均	23.3
1位 沖縄県	44.7
2位 青森県	33.5
3位 鹿児島県	33.1
4位 徳島県	32.8
5位 高知県	32.6
6位 福島県	32.4
7位 宮崎県	31.8
8位 熊本県	31.3
9位 愛媛県	30.3
10位 京都府	29.4

2012年度 順位	
全体平均	21.3
1位 沖縄県	47.4
2位 秋田県	32.8
3位 岩手県	32.3
4位 鹿児島県	30.4
5位 福島県	30.1
6位 熊本県	28.9
7位 山形県	28.7
8位 大分県	27.8
9位 宮城県	26.8
10位 愛媛県	26.7

■ 子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：和歌山県

8位福島県（前年度14位）、9位高知県（前年度33位）が今回トップ10入り。全国的にテーマパーク・遊園地、動物園・水族館など子供向けエンターテインメント施設に加え、海水浴場やプールが支持を集める傾向。

全国的に、テーマパーク・遊園地、水族館・動物園が数多く挙げられるのに加え、海水浴場やプールに関するコメントが目立つ。8位福島県では有名なスパリゾートが、9位高知県では子供向けの有名キャラクターのミュージアムがそれぞれ最多のコメント数であった。

(単位：%)

2013年度 順位	
全体平均	23.3
1位 千葉県	58.5
2位 沖縄県	37.8
3位 和歌山県	33.7
4位 長崎県	29.5
5位 大阪府	28.5
6位 山梨県	27.6
7位 三重県	27.1
8位 福島県	25.8
9位 高知県	25.6
10位 大分県	25.5

2012年度 順位	
全体平均	21.8
1位 千葉県	58.0
2位 沖縄県	38.5
3位 和歌山県	38.4
4位 長崎県	31.9
5位 三重県	30.2
6位 大阪府	28.1
7位 栃木県	26.1
8位 山梨県	24.8
9位 大分県	23.5
10位 熊本県	22.5

■ 若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：大阪府

9位北海道(前年度11位)と10位高知県(前年度40位)が新たにトップ10入り。テーマパーク、水族館は若者にも人気。さらに自然体験や新名所も多く挙げられた。

全国的に人気のテーマパークや水族館に加え、ショッピングスポット(商業施設名、街の名前など)が多く挙げられた。3位大阪府では、昨年話題だった「グランフロント大阪」が多数挙げられ、さらに早くも「あべのハルカス」のコメントも。9位ランクインの北海道では「旭山動物園」、10位ランクインの高知県では「坂本龍馬関連施設」を挙げるコメントも多数みられた。

(単位：%)

2013年度 順位	
全体平均	26.2
1位 千葉県	55.2
2位 沖縄県	48.6
3位 大阪府	40.3
4位 福岡県	33.6
5位 東京都	33.3
6位 長崎県	32.7
7位 神奈川県	28.5
8位 和歌山県	27.6
9位 北海道	26.9
10位 高知県	26.3

2012年度 順位	
全体平均	24.7
1位 千葉県	54.8
2位 沖縄県	48.6
3位 大阪府	40.9
4位 東京都	34.5
5位 長崎県	32.3
6位 福岡県	29.2
7位 和歌山県	27.8
8位 神奈川県	26.8
9位 三重県	25.6
10位 山梨県	25.5

■ 大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位：千葉県、2位：京都府、3位：沖縄県

千葉県が2年ぶり1位返り咲き。今回トップ10入りしたのは、6位島根県(前年度14位)、8位大阪府(前年度11位)。テーマパークが強い府県と、寺社仏閣が強い府県ではっきりと傾向が分かれた。

日本を代表するテーマパークを有する千葉県が、アニバーサリー効果などもあって1位返り咲き。また、8位にランクインした大阪府も業績好調なテーマパークを中心に支持を集めた。一方6位にランクインした島根県では「出雲大社」という回答が突出して多く、同社の遷宮が印象に残ったようだ。他にも京都府、三重県、広島県、奈良県は寺社仏閣で支持を集めている。

(単位：%)

2013年度 順位	
全体平均	41.7
1位 千葉県	59.3
2位 京都府	56.3
3位 沖縄県	54.8
4位 長崎県	50.8
5位 三重県	48.4
6位 島根県	47.2
7位 広島県	46.7
8位 神奈川県	45.1
8位 大阪府	45.1
10位 奈良県	44.4

2012年度 順位	
全体平均	39.2
1位 沖縄県	56.6
2位 千葉県	56.5
3位 京都府	51.8
4位 奈良県	48.1
5位 長崎県	45.8
6位 東京都	43.7
6位 広島県	43.7
8位 神奈川県	42.4
9位 大分県	41.9
10位 三重県	41.4

■ 現地で良い観光情報  
を入手できた

－ 1位：沖縄県、  
2位：京都府、  
3位：青森県

高知県・宮崎県・広島県  
がトップ10入り。

宿、交通機関、観光案内所が3大入手接点となっており、地域側からの積極的な声かけが有効そうだ。

(単位：%)

2013年度 順位	
全体平均	25.7
1位 沖縄県	43.9
2位 京都府	39.0
3位 青森県	37.4
4位 鹿児島県	35.8
5位 高知県	34.9
6位 宮崎県	34.6
7位 奈良県	32.2
8位 島根県	32.1
9位 北海道	32.0
10位 広島県	31.7

2012年度 順位	
全体平均	23.0
1位 沖縄県	42.6
2位 京都府	35.4
3位 奈良県	35.1
4位 鹿児島県	31.9
5位 愛媛県	31.1
6位 北海道	29.9
7位 青森県	28.7
8位 岩手県	28.4
9位 秋田県	28.1
10位 長崎県	27.6

＜ランキングの算出方法＞

※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

①訪問した旅行先の評価を「そう思う」「ややそう思う」「ふつう」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階から選択。

②「そう思う」「ややそう思う」計の割合が多い順にランキング。

＜コメントの回答方法＞

「そう思う」「ややそう思う」と回答した設問に任意でコメント記入。

※対象設問：「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」「魅力のある特産品や土産物が多かった」「魅力的な宿泊施設が多かった」「子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「地元の人ホスピタリティを感じた」「現地で良い観光情報入手できた」